

令和 6 年度

甲 州 市 総 合 教 育 会 議 議 事 録

令和 7 年 1 月 15 日 開会

令和 7 年 1 月 15 日 閉会

甲州市政策秘書課

1 日 時 令和 7 年 1 月 15 日(水)
午前 10 時 30 分開会
午前 11 時 25 分閉会

2 場 所 甲州市役所 本庁 2 階 第一会議室

3 出 席 者 甲州市長 鈴木幹夫
甲州市教育委員会
教育長 小林俊彦
教育長職務代理者 加藤幸夫
教育委員 依田智子、永田清一、反田千佳
事務局職員
政策秘書課長(事務局長)、政策調整担当リーダー、政策調整担当
教育総務課長、教育総務担当リーダー、学校教育担当リーダー
生涯学習課長(欠席)、スポーツ振興担当リーダー

4 欠席委員 なし

5 協議事項等
①塩山中学校・塩山北中学校の統合について(報告)
②GIGAスクール構想の取り組みについて(報告)
③教育支援センター「陽だまり教室」について(報告)
④中学校部活動地域移行について(報告)

6 議事経過 以下のとおり

(午前 10 時 30 分開会)

1 開会

【前田事務局長】

それでは定刻になりましたので、只今から令和 6 年度甲州市総合教育会議を開催いたします。会議に先立ちまして挨拶を交わしたいと思います。相互に礼。着席。

本日、総合教育会議の事務局は政策秘書課となっております。私、総合教育会議の事務局局長となっております、本日司会を務めます政策秘書課長の前田と申します。よろしくお願いいたします。

まずは総合教育会議の位置づけにつきまして、ご承知の委員さんもいらっしゃるかと思いますが、改めて説明させていただきます。

参考資料にある通り、総合教育会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項の規定に基づき設置し、地方公共団体の長と教育委員会が対等な執行機関同士として協議・調整する場であり、地方自治法に規定される附属機関、いわゆる市政運営における決定機関や市長の諮問機関にあたるものではありません。会議は原則として公開され、終了後はその議事録を公表いたします。

また、総合教育会議においての協議は、あらかじめこの法に規定されている①大綱の策定、②教育、文化の振興を図るために重点的に講ずべき施策、また、③児童、生徒の生命または身体の保護のための緊急措置という事項について、協議・調整し、市長と教育委員会とが合意を図っていくものとなります。

本日の会議では、教育の振興を図るために重点的に講ずべき施策である4つの議題について行うこととなっておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、お手元の次第により会議を進めさせていただきます。

はじめに、鈴木市長からご挨拶をよろしくお願いいたします。

2 市長あいさつ

【鈴木市長】

本日は、総合教育会議の開催にあたりまして、多忙の中、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。また、日頃より本市の教育行政につきまして、格別なるご尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、本市の教育行政におきまして、第2次甲州市総合計画に掲げた基本目標「心豊かな人を育む教育・文化のまちづくり」のもと各種施策を推進しております。

この総合教育会議を通じまして、教育委員の皆様と意見を交換し、意見を共有しながら、一層連携を深め、次代を担う人材の育成、誰もがともに学び育て合う、甲州市らしい文化の創造に向け、議論を深めて参りたいと考えているところでございます。

本日は、「塩山中学校と塩山北中学校の統合について」また「中学校の部活動地域移行について」等の経過報告がなされるとのことであります。有意義な会議となりますよう、ご協力をお願い申し上げまして、一言挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3 議事

【前田事務局長】

ありがとうございました。それでは議題に移らせて頂きます。

本日につきましては、4件の報告を予定しております。まず小林教育長から全体を通してのご報告をお願いします。

【小林教育長】

それでは本日の議題全般につきまして、私の方から報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、塩山中学校および塩山北中学校の統合につきましては、校舎大規模改造工事、スクールバスの購入等、塩山北中学校から異動となる生徒たちを、万全の態勢で受け入れる

べく準備を進めているところであります。

4 月には、令和の新基準となる「新しい塩山中学校」をお見せできるものと確信しております。

また、65 年の長きにわたり地元の皆様にも愛されてきた塩山北中学校につきましては、3 月 23 日に閉校式および閉校記念式典を実施すべく調整をしているところであります。

閉校までの時間は限られてはおりますが、生徒、教職員、保護者、地域の皆様の思い出に残るような事業を展開して参ります。

次に、GIGA スクール構想の取り組みにつきましては、学校施設のネットワーク環境や、1 人 1 台の ICT 端末を早期に整備し、ICT を活用した教科指導や学校校務の情報化を推進したことにより、全小中学校が学校情報化優良校となり、さらには県内では初となる学校情報化先進地域として認定をいただいたところであります。

文部科学省をはじめ、県内外の地方公共団体が視察に訪れるなど、全国的にも情報教育に先んじた地域と認められたものと自負するところでございます。

さらには、教師が児童生徒と向き合うための時間を確保するために、校務 DX への取り組みを進めたことにより、全国第 2 位として認定されたところであります。

教職調整額の順次引き上げ等、教職員の処遇改善が行われるところでありますが、学校現場でも、教職員の働き方改革をさらに進めて参ります。

一方、ICT 端末の耐用年数が近づいていることから、更新を計画的に進めているところでありますが、財政面での大きな負担を必要とすることなど、課題も抱えているところでございます。

甲州市 GIGA スクールの更なる推進のためにも、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

次に、教育支援センター「陽だまり教室」につきましては、令和 4 年 4 月に大和ふるさと会館内に設置していただいて以降、学習活動や体験活動を行う中で、安心感、自己肯定感を高めるとともに、児童生徒の状態に応じた指導、支援を行う取り組みにより、所属校への復帰や中学 3 年生の上位校への進学等、着実に成果が表れております。

本年度は、市当局にもご理解をいただく中で、5 名の指導員を配置していただき、不登校児童生徒の支援を着実に実施しているところであります。

一方で、不登校の低年齢化が進んでおり、小学生に対応した指導場所の確保が課題となっております。

既存の公共施設を借用しての活動となりますので、施設選定の際には、ご支援をよろしくお願いいたします。

最後に、中学校部活動地域移行につきましては、昨年度より専任のコーディネーターを配置していただくとともに、甲州市中学校運動部活動地域移行推進委員会を設置し、現場の意見なども伺いながら取り組みを進めております。

今年度は、実証事業として地域クラブを見据えたラグビー部と、拠点校方式による女子ソフトボールの活動に取り組んでいるところであります。

部活動の地域移行には、受け皿となる組織体制や指導者の安定的な確保をはじめ、生徒たちの移動手段や費用負担、さらには文化部の扱いや平日部活動の在り方など、多くの

検討課題がございますが、今後もできる限り生徒の意向に即した形で地域移行が進められるよう、国や県の動向も注視しながら取り組みを進めてまいります。

私の方からの報告は以上となります。引き続き、清水教育総務課長および小林生涯学習課長が体調不良により欠席のため、代理の生涯学習課スポーツ振興担当土屋リーダーから詳細な説明がありますので、よろしくお願いいたします。

【前田事務局長】

ありがとうございました。

それでは、議題の詳細につきまして、①から③は清水教育総務課長、続いて④につきましては、教育長からもあったとおり、土屋リーダーよろしくお願いいたします。

【清水教育総務課長】

それでは今年度の取り組み状況につきまして、私の方から説明をさせていただきます。

まず1点目、塩山中学校および塩山北中学校の統合について、でございます。資料1をご覧くださいいただければと存じます。

塩山中学校および塩山北中学校の統合を円滑に行うために必要な準備、検討を図るため、令和5年5月に塩山中学校および塩山北中学校統合準備委員会を設置し、これまでに12回の協議を進めてきたところでございます。

本年度につきましては、制服、体育着、通学カバン等の学校指定品や校則等学校生活の決まり、保護者役員選任方法等の決定を行ってきたところでございます。

さらには、昨年度からの継続事業として行って参りました校舎大規模改造工事が終了し、現在は学校敷地内にスクールバス乗降場所の設置工事を行っているところでございます。

学校間では校内陸上競技会、学びの集会、スキー教室等の合同開催を始め、部活動の合同練習等、生徒たちの交流の場を多く設けることにより、4月からの学校生活の不安解消に努めているところでもございます。現在はスクールバス運行管理業者の選定とあわせまして、年度末までには受け入れ体制を万全にして参りたいと考えております。

なお、来年度以降につきましては、統合後の学校生活が安心して送れるように、子供支援スタッフの増員や、臨床心理士、スクールカウンセラーの派遣等支援を行って参りたいと考えております。

また、塩山北中学校の閉校に向けては、地域代表、学校運営協議会の委員、保護者代表等で組織いたします、塩山北中学校閉校記念事業実行委員会を7月に設立し、4回の協議を重ねる中で、閉校記念アルバム、閉校記念誌、記念碑の建立等の事業を行うとともに、今週末には地域の皆様、保護者、卒業生を含めた塩山北中学校にゆかりのある方々と共に、航空写真を撮影することとしております。

500名の募集に対しまして、現在450名を超える皆様から応募があり、盛大に開催できるものと考えているところでございます。

次にGIGAスクール構想の取り組みについて、でございます。資料2をお願いします。

本市につきましては、県内市町村に先駆け、令和2年12月に市内全ての児童生徒に

学習用端末の整備を行い、国が目指す令和の新たな日本型学校教育に対応してきたところでございます。

国では自治体間において生じている活用状況の格差を解消するため、効果的な実践事例を創出・横展開するとともに、伴走支援を強化することとしております。

本市においても加速化事業の一つであります、リーディング DX スクール事業を塩山南小学校と塩山中中学校が昨年度から取り組み、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進めているところでございます。

2校で培いました事業展開を市内全ての学校に行っていくとともに、他校においても事業指定されるよう、働きかけを行って参ります。

また、教師が児童生徒と向き合う時間を確保するために、校務全般をデジタルにより効率化し、教師の負担を軽減する取り組みが進められております。

教職員と保護者、児童生徒間および学校内の連絡のデジタル化について、取り組むべき項目が国において示されており、採点を行ったところ、全国2位の得点となったところでございます。

児童生徒1人1台端末は、本年12月には導入から5年が経過し、学習端末内蔵バッテリーの耐用年数を迎えることから、更新に向けて県と協議を進めているところでございます。

教職員が利用する校務支援システムとの協調も視野に入れ、一体的な取り組みとして進めて参ります。

次に教育支援センター「陽だまり教室」について、であります。資料3-1をお願いいたします。

コロナ禍の影響から、生活リズムが乱れやすくなったことに加え、交友関係の構築が未熟なことなどにより、不登校となる児童生徒が増加をしております。

心理的理由等によって不登校状態にある児童生徒に対して、自立および学校生活への適応に関わる指導を行い、在籍する学校への復帰を支援するため、甲州市教育支援センター「陽だまり教室」を令和4年4月に大和ふるさと館内に設置をいたしました。

昨年度在籍した中学3年生が全員上級学校への進学がなされたことなどから、保護者への認知が進み、問い合わせを含め生徒数の増加が見られております。

本年度は小学校4年生からの受け入れに拡充するとともに、指導員を1名増員し、室長を含め5名体制で取り組みを行っているところであります。

一方で、不登校の低年齢化が進みつつあり、小学生の居場所づくりが新たな課題として考えられることなどから、学校とはある程度距離を保ち、かつ、通いやすいところに第2の陽だまり教室を設置すべく、検討しているところでございます。

私からの報告は以上となります。よろしくお願いいたします。

【前田事務局長】

ありがとうございました。続きまして、土屋リーダーの方からお願いします。

【土屋スポーツ振興担当リーダー】

それでは、中学校の部活動の地域移行につきまして説明をさせていただきます。

中学校の部活動地域移行につきましては、これまで、教員、学校の先生が担っていた部活動の指導を、地域全体や民間団体等に担っていただき、地域の活動として位置付けることとし、現在、全国の自治体で取り組みが進められております。

地域移行が進められている背景には、少子化に伴う活動のメニューの縮小や、生徒のニーズの多様化などが言われていますが、大きなものとしては、教員数の減少と勤務負担の増加があり、その点を改善するための「教員の働き方改革」が挙げられてきました。

甲州市では、先ほど教育長から説明があったとおり、昨年度から専任のコーディネーターとして、中学校教諭のOBである小宮山先生に委嘱するとともに、市内4中学校の校長や体育主任のほか、スポーツ協会会長やスポーツ推進委員会会長、PTA代表者らで構成する「甲州市運動部活動地域移行推進委員会」において、市が目指すべき方向性について協議を進めております。

また今年度は、国の補助を受けた実証事業として、ラグビーと女子ソフトボールにおいて、学校の枠を超えて指導者にも地域の方をお願いする中で、活動に取り組んでおります。

女子ソフトボールについては、塩山中学校を拠点校とし、他の中学校の生徒も活動に加わることでできる体制をとりましたが、残念ながら今のところ他校からの参加者はおりません。

ラグビーについては塩山中学校と勝沼中学校から参加者がおり、10月の県大会にも出場してまいりました。

また、現在も両校の1、2年生と一緒に練習を行っており、今月末から始まる県の新人戦に「甲州市ラグビークラブ」として参加することになっています。また、来年度には、卓球と女子ソフトテニスについても、地域移行を見据えた活動を行う予定で、協議を行っている状況でございます。

こうした取り組みは、市のホームページにおいて逐次情報発信を行い、そこでは保護者や生徒になるべくわかりやすく伝えられるように、Q&A形式による説明など工夫して出しております。

地域移行については、少子化を背景に国や自治体に取り組みを促してきたところではありますが、先ほど教育長の説明にあった通り、この取り組みを進めていく上では、活動を担う組織体制や指導者の確保、生徒の移動手段や費用の問題など、検討すべき多くの課題を抱えており、明確な到達点が見えていないのが正直なところでございます。

本日の資料4に現状の各中学校の部活動の状況をお示しさせていただいております。資料4をご覧ください。

こちらには、今年度の各学校の部活動の部員数を左側に示してございます。このうち、3年生については今年卒業となりますので、この4月に入学する新1年生の入部状況によって、状況は変わってくる可能性はありますが、いずれにしても各校・各部とも現状のままでは、部の存続が厳しい状況であります。

資料4の真ん中あたりに、令和7年度以降の方向性の欄がございますが、こちらはコーディネーターにご尽力をいただき、生徒たちの夏休みの間に各競技の顧問の先生方にご

協議いただき、その方向性の結果をまとめたものです。

これを踏まえまして、右側の欄に令和 7 年度の案を示しております。先ほど、ラグビー、女子ソフトボールに続いて、卓球と女子ソフトテニスについても令和 7 年度から地域移行を見据えた活動を検討していると申しましたが、今後生徒や顧問の先生の状況などにより、流動的な面もあります。

そこで、今月末には新 1 年生を対象とした部活動意向アンケートを取る予定でございます。これを踏まえまして、年度内に推進委員会を開催し、令和 7 年度の取り組みや方向性を検討していく予定となっております。

また、資料 4-2 をご覧ください。こちらは、現在国の「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」において有識者による今後の取組に向けた議論が行われており、その中間とりまとめとなっています。1 枚目の改革の理念及び基本的な考え方にありますように、地域移行の目的を「少子化が進む中で、将来にわたり生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実すること」としております。

また、(3)にありますように、今後はより地域クラブ活動の在り方等をよりの確に表すため、『地域移行』から『地域展開』へ名称を変更していくこととなっております。

2 枚目の『3、今後の改革の方向性』によると、休日については次期改革期間内に、原則全ての学校部活動において地域展開の実現を目指すとなっております。また、平日については、さらなる改革を推進するとしております。

先ほど、教育長からの報告にもありましたとおり、今後は、運動部だけではなく文化部の活動についても検討が必要となって参ります。さらに休日だけでなく、平日の部活動の在り方についても考えていかなければなりません。

こうした中で、活動の内容によっては甲州市だけでなく、近隣の自治体との連携についても考えていく必要があると思っております。

いずれにしても、甲州市の中学生がいきいきと部活動ができるよう、課題は多いですが、できる限り生徒の意向に沿った部活動となるよう、体制づくりを進めてまいります。以上です。

【前田事務局長】

ありがとうございました。教育長から全体の報告、そしてそれぞれの詳細な説明がありましたが、市長から一言お願いいたします。

【鈴木市長】

教育長から、4 点報告をいただきました。そして、課長の方からも、ただいまご説明をいただきました。

この 4 月の塩山中学校、それから塩山北中学校の統合につきましては、教育委員会の皆様に多大なご尽力を賜り厚く御礼を申し上げる次第でございます。

塩山北中学校におきましては、長い歴史に幕を下ろすことになります。歴史ある学校の最後を飾るにふさわしい、生徒たちや、関係者の皆様、また地域の皆様の心に残るような式典を開催していただきますよう、お願い申し上げます。以上でございます。

また、新しい環境で学ぶことになる生徒たちにとりまして、「新しい塩山中学校」が、より充実した学びの場として、安心して学校生活を送れるよう、引き続き、万全の対応を賜りますようお願いを申し上げる次第でございます。

それから次に、GIGA スクール構想の取り組みにつきましては、その取り組みの実績が非常に高く評価され、本市が全国的な情報教育の先進地域として認められたことは、大変素晴らしく誇らしい成果であります。

ひとえに教育委員会の皆様をはじめとして、関係の皆様のご尽力の賜物であると、これにつきましても心より感謝を申し上げる次第でございます。

甲州市の GIGA スクールの更なる推進に向けて、引き続き相互に協力しながら、ともに取り組んで参りたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

次に、教育支援センター「陽だまり教室」につきましては、先ほどお話がございましたけど、通う児童生徒が「陽だまり教室」で指導支援を受けて所属校へ復帰を果たすなど、着実に成果が表れていると報告をいただきました。非常に素晴らしいことだと感じております。

今後、未来を担う子供たちが、自ら可能性を拓く豊かな人生を歩むとともに、持続可能な社会への作り手として成長できるように引き続き協力をお願いしたいと思っております。

先ほど、課長からお話がありましたが、今の和歌山だけではなく、新たに塩山地区を中心に場所の選定等々、あるいは時期的なことを相互に検討しながら、開設できる方向性が望ましいのかなと思っておるところでございます。

最後に部活動の地域移行につきましては、少子化が進む中で、中学校の部活動を地域全体で支えることによりまして、生徒たちの活動がより豊かで多様なものとなるような、重要な取り組みであると考えております。

本市におきましても、取り組みは着実に準備が進められている一方で、部活動のあり方や広域的な連携の必要性についても、引き続き検討する必要があると考えております。

今後とも、生徒たちに寄り添いながら、学校と地域が一体となって支えていけるような、持続可能な体制作りを進めていけるよう、お願いをするものでございます。

いずれにしても、山梨県下において、実力のあるスポーツなどで、ある程度の実績が出てくれば、やはり認めてきてくれるのかなと思っておるところでございます。これにつきましても、皆様方のお力添えをよろしくお願いをしたいと思います。以上でございます。

【前田事務局長】

ありがとうございます。教育長から何かありますでしょうか。

【小林教育長】

それでは、本日の議題につきまして、報告の機会をいただきありがとうございます。

中学校再編、GIGA スクール構想に基づく取り組み、そして教育支援センター「陽だまり教室」につきましては、いずれも本市の児童生徒の教育環境に関する重要な教育政策であります。

また、部活動の地域移行につきましては、先ほどの説明にありましたが、『地域展開』と名称が改められ、関係者の皆さんを含め、地域全体で連携して支え、生徒の豊かで幅広い活

動機会を保障していく体制の推進を図っていきたいと考えております。教育委員会といたしましては、総合教育会議での協議等を通じまして、市長部局と政策の方向性を共有し、一致して今後の業務を執行していきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

【前田事務局長】

ありがとうございます。次に進めさせていただきます。

⑤その他でございます。①から④までそれぞれ教育委員会からご報告をいただきましたが、せっかくの機会でございますので、教育委員の皆様から今日の議題につきまして、一言ずつお願いをいたしたいと思っております。

はじめに、永田委員からよろしいですか。お願いいたします。

【永田委員】

先ほどからのお話を聞きながら、また今日に至る経緯もお話をいただきました。感想が中心になりますけれども、失礼させていただきます。

まず、塩山中学校および塩山北中学校の統合についてですが、この統合にあたって、市当局や教育委員会の教育総務課を中心としたスタッフに事細かな対応をしていただいた。私は地元の人間ですので、そんな感想を持っております。

おかげさまで、統合することに対しての過大な不安や不信などもなく、今日を迎えていると思います。そういった意味では、大変プロセスにおける誠意が、地元の人たち、あるいはOB OGの人たちにも伝わったのではないかというふうに感じております。

GIGA スクールの取り組みについては、先ほどの教育長の話の通りだと思っております。リーディング DX スクール事業というのは、外から見ている、中で授業を見させていたいただいても、大変なエネルギーを教師も、またそれを受けている子供たちも、前に前にという気持ち、GIGA スクール構想を成功させよう、という力で展開をされているというふうに思います。それがひとつ、数字としてもあらわれているのだらうと思います。

ただ、これは高い数字を取ればよいというものではなく、この中にもありますように、個別最適な学びを自分の中で掴む。あるいは自分だけではなく、他の力、他人の力、友達の力も借りながら学ぶという、協働的な学びの力というようなことも、これからずっと生きていく中で、学習だけではなく社会の中でも、重要な資質であろうし、大事にしていかなきゃならないと思っております。

したがって、この GIGA スクール構想は、本当に大転換のような取り組みですが、これに対して、関係する職員の皆様の尽力を改めてありがたいと感じております。

そして、「陽だまり教室」はとても好評です。今、学校に通えないあるいは学校に通っていても言いたいことも言えないという子供たちがいます。

それは、子供たちに何か悪いことが発生しているのではないか、ということではなく、その子供たちにとって自分の生活、その根幹が「あの中には入りづらい」「行きづらい」というようなことになっているのではないのでしょうか。そのことを少しでも緩和する、あるいは、そういう子供たちに寄り添える施設である「陽だまり教室」を建て、そこに子供たちが通うことにな

るのですが、そのおかげで、「ここの陽だまり教室ってとても居心地が良い」ということを体感している子供たちもいることは確かです。そんな話も具体的に聞いております。

さらに、こういった学校に行きづらいという子供たちが増えている実態の中で、どう対応できるか、あるいは手助けができるか、子供たちにとっての味方になれるか、ということだと思っています。

第2の施設を作るという、前向きな方向で進められているということも将来の展望として明るいことであると思います。

最後に部活動ですが、これはやはり急激な少子化社会。チームが1つの学校ではできない。「俺は野球をやりたいけど、9人いないのであきらめよう。」というようなこと。そうであれば、先ほどの教育長のお話にもありましたように、地域展開として、一つのところにこだわるのではなく、やりたい子供たちが集まって楽しく。これは子供たちにしてみれば、一生自分の精神的な支えとなるスポーツ、信念、そういうものを自分に身に着けてくれるのではないかと、思います。これについても、大変前向きにいろんな施策をやってくれているのがわかりました。ありがとうございます。今後もよろしくお願いします。

【前田事務局長】

ありがとうございました。それでは、加藤職務代理人、お願いいたします。

【加藤職務代理人】

一つだけの感想で述べさせていただきます。過日、20歳の出発がありまして、そのときに感じたことを。

今日、土屋リーダーから総括がありましたが、約9割強の方が参加してくださるということもすごいなと思いました。そして、代表の方の抱負について、代表の方のみしか聞いていませんが、この会場にいる成人の方がそういうふうに思っているのだな、というのが伝わってきました。その中で、非常に嬉しかったのが、コロナ禍を経験し、ICTの技術革新が飛躍的に伸びた時代を過ごしてきている一方で、改めて、人との繋がりとか、関係性を持つことが大事だと感じたということ。また、さらにその人に感謝する気持ちというのを大事にしなければいけない、ということを皆さんが言っていたように思いました。

そのことは、すごく印象に残っていて、まさに甲州教育の柱で、そういう人材を育成したいと願っていて、甲州市が取り組んできたその成果の最たる姿を見たような気がしました。

故郷を愛し、愛する甲州教育の中で、大きな目標を目指して取り組んできたことが、形になっているのではないかと、感じます。

さらに、ゆくゆくは地域に戻ってきて地域で活動したい、貢献したいという声もあり、非常に頼もしく感じました

自分は、そんなふうに故郷を思っていなかったのが、反省してしまったぐらい、本当にすごいなというふうに思いました。

こういういろいろな取り組みの中で、これからやっていかなければならないことも、言われている通り、本当にたくさんあるのですけれども、全部やることは難しいのだと思います。やはり、甲州教育の柱となるところに、ぶれないようにしっかりやっていこう、ということを重ね

点として取り組まれてきている、と私は感じている。こうしたことが、心身ともに健全な人材の育成に繋がっていると思うにつけ、やはりこれからも取捨選択することも同時にしなければいけないという厳しい状況ですけれども、「これが大事」というのを確実に見極めながら、取り組めるようにできれば良いのかな、なんていうことを改めて感じさせていただいたところです。以上です。

【前田事務局長】

ありがとうございます。では、依田委員お願いいたします。

【依田委員】

今日の議事であるこの4つのことですが、それぞれいろんな課題はあるとは思いますが、これまで素晴らしい成果を上げてきている。特にGIGAスクール構想は、全国からも注目を集めるぐらいになっているということで、本当に関係の先生方、皆さんのこれまでの取り組みが素晴らしいなと感じています。

先ほど、教育長からも話がありましたが、ちょうどこの端末を更新する時期に当たるということで、莫大な費用がかかると思うのですけれども、ぜひ、これまで全国的に注目されてきたこの流れが止まってしまうことがないように、ぜひお願いしたいと思っております。

それから、塩山中と塩山北中の統合につきましては、本当にこれまで何度も何度も準備委員会が開かれて、もう間違いなくスムーズに進むのは目に見えてわかるような感じがするのですが、決して吸収合併ではなく統合である、ということ。塩山北中のこれまで培ってきた素晴らしいDNAがあると思います。今、目に見える形としては、音楽的な活動が素晴らしいと思うのですけれども、塩山中と一緒になったことで、さらにまた新生塩山中学として、花開くような形になることを願っております。

それから、先ほど加藤先生の方からも先日の20歳の出発の感想もあったのですが、私も本当に20歳の皆さんの感想を聞いていまして、素晴らしいなど。やはりこの甲州教育、地元を愛する気持ちというのが、本当に皆さんに育っているなというのを感じましたし、感謝の気持ちをそれぞれの皆さんが述べているのを聞きまして、涙が出るような感じもいたしました。

ぜひ、これからもそういう故郷を愛する気持ちっていうのを、お子さんたちに伝える教育をしていただきたいと思います。また、学校内だけでなく、もっと市民の皆さんに「学校では、今こういうことを行っているんです」ということを伝える機会を増やしていただきたいと思います。

今年は、市制施行20周年という記念すべき年でもありますので、教育現場でもなにか新しくなった取り組みを始めるとか、そんなことも考えていただければ嬉しいなと思います。以上です。

【前田事務局長】

ありがとうございます。それでは、昨年の12月に就任された反田委員から感想等いただければと思います。

【反田委員】

昨年12月から教育委員となりました反田と申します。子供が南小学校に通っている保護者です。

保護者の目線からですが、実際リーディングDXスクールに取り組む学校に通っている子供を見ていて、本当にのびのびと、いきいき新しいことを学べる環境で勉強させていただいています。

親としまして、先生方のインプットアウトプットというか、研修に行かれて、それを自校の子供たちがよりよい環境で学べるように、という先生方の熱心な指導を感じております。

このような環境下で、学ばせていただけていることに感謝すると同時に、このまま継続してさらにステップアップしていくこと、そして甲州市全体にこういう環境が広がることを望んでおります。

また、部活動の地域移行に関しまして、自身の経験として、やはり13、14、15歳という年齢の時に、友人や、先生方と運動や文化を通じて、その技術だけではなく、人との繋がりというもの、また社会というものを子供なりに学んだことを覚えています。どうしても少子化ということで、触れる機会が少なくなってしまうということもあり、もったいないと思いますので、引き続き子供たちにそういう機会を与えていただける環境を作っていただきたいと思います。

先日の20歳の出発に参加させていただいたときには、壇上に上がった代表者たちの様子を親目線で見、自分の子供も「甲州市は素晴らしいまちなんだ」ということを、自信を持って思えるような環境作りを、私もこれからも見守っていきたいと思っております。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

【前田事務局長】

ありがとうございます。

教育長はじめ各教育委員の方々から貴重なご意見をいただきました。

GIGAスクール構想の推進に関しましては、当時、教育部局と市長部局で協議を重ね、早期導入を決断したという経緯があります。このときの決断が、今のこの素晴らしい成果につながったのだと感じております。

【鈴木市長】

この塩山中と塩山北中の統合について、当初は教育長と話をする中で、違う形も考えていました。今後についても将来的に後悔することのない様に、PTAや地域の方たちのご意見も伺っていきたいと思っております。

また、話は変わりますが、就任の当時、本当は他の施策を先に考えていたんですが、まずはGIGAスクール構想を、と前の教育長に説明を受けました。かなり大きな額だった。

それで私は、こんなに大きな額の決裁を市長になって初めてさせていただいた。本当に「良いことだ」という教育委員会を信じて判子押したのだけれど、結果的に良かったのかなと思っております。

諸々あるのですけれども、20歳の出発の実行委員長が最後に私のところに来たときに、

皆様の前でも言ったんですけれど、「大学に行って、4年経ったら地元に戻ってくる」と。本当かなと言ったら、「帰ります」と言ってくれた。昔の20歳と今の20歳はちょっと違うなと、いうふうに思いました。なんだか本当によかったなと思いました。きっといずれ、甲州市を支えていただけるような形になるかなと思います。

それから土屋リーダーの方から話がありましたが、やはり少子化で学校規模が小さくなってしまうと、実際やりたい部活もできない。どこかのスポーツクラブに入ってやるならいいけれど、そういう話がいろんな学校で出ている。そんなことで、いずれそういう話が出てくるのかなという感じがします。

勝沼中学校と大和中学校が統合した際には、紆余曲折の中でギリギリという感じもあったのですが、終わってみたら、保護者の方も子供たちもみんな「良かった」と言ってくれた。

次は、大和中の跡地をどうするかということになり、2年間で地域へお任せしたんだけれど、最終的には市としては良い方向性で進められそうということです。

統合後については、塩山北中の跡地をどうするのか、市の方でも考えていかなければならないと思っております。

神金と大藤と玉宮の地域の活性化を図るには、どういう方向が一番いいかというのも、やはり地域の皆さんで話をしてもらって、いろんな仕組みを考えられれば、素晴らしいものになると思います。国道沿いでもありますから、いずれなんらかの方向性の中で、市をあげて協力していくような形かなと思っております。

これから、教育長を中心に教育委員会の皆さんが、先ほど言った市制20周年という話、依田委員もおっしゃったけれど、これについての教育関係の事業は、教育長を中心に、教育委員会の事務局で考えて、早めにこういうことをしたいということが一つか二つあれば。出来れば、教育の20周年を飾る何かが必要だろうなと思っておりますから、教育長、清水課長とも話をしながら、進めていただきたいと思います。これは教育部局ですから、逆にお願いします。以上です。

【前田政策秘書課長】

ありがとうございます。最後に教育長から一言いただきたいと思います。

【小林教育長】

最後に、いろいろありがとうございました

市制20周年ということで、教育委員会としても、事業を考えています。

この間の教育委員会のときに、依田委員から、市制20周年ということで、各校で地域学習ですとか、そういったことをもう一度見直し、取り組んで、それをまとめ、発表するような内容の計画を今進めているところです。今年は終戦80年になるとのことです。それについても各学校で取り上げられるものもあるのかなと。

市制20周年として、先ほど市長もおっしゃいましたけれども、もう1度教育部局で、甲州市の学校教育としても発足20周年になりますので、各学校で特色ある取り組みを、皆さん方にお示しできたらなということを思っております。また具体的なものができたら、報告をさせていただきたいと思います。

4 閉会

【前田事務局長】

ありがとうございます。

また、次回からも総合教育会議において、各教育委員の皆様には屈託なくご意見を言っていただければ、市長部局と教育部局とも相互に連携を取りながらできるかと思しますので、皆様のご協力をお願いいたします。

それでは、最後に挨拶を交わしまして会議を終わりたいと思います。ご起立をお願いいたします。相互に礼。

【全員】

ありがとうございました。

(午前 11 時 25 分閉会)